

## 仙石原湿原保全対策モニタリング要領

### (目的)

- 1 仙石原湿原保全事業として行う灌木伐採、ヨシ・ハコネダケ刈り取り及び火入れ等の人的行為が、動植物相や地下水に対してどのような変化をもたらしていくかを記録し、将来的な管理を検討するための資料とする。

### (調査内容)

- 2 モニタリング調査は次のとおりとする。
  - (1) 植生調査 (表 - 1)
  - (2) 昆虫の生息調査 (表 - 2)
  - (3) 小動物の生息調査 (表 - 3)
  - (4) 水域調査 (表 - 4)
  - (5) 土壌調査 (表 - 4)
  - (6) 景観調査 (表 - 5)

### (調査員)

- 3 各種調査を実施する場合は最小限人員とし、次のとおりとする。
  - (1)各調査のリーダーは、国および県および箱根町の職員等をもって充てることとし、ボランティア調査員の育成に努める。
  - (2)ボランティア調査員については、各リーダーが中心に募集を行い、集まった調査員を事務局に登録する。

### (調査の報告)

- 4 調査の報告は、次のとおりとする。
  - (1)リーダーは年度計画を四月に事務局に提出する。
  - (2)調査に入る場合は事前に事務局に連絡する。
  - (3)調査が終了した場合は調査日報を事務局に提出する。
  - (4)調査報告は毎年3月末日までに事務局に提出する。
  - (5)調査報告をまとめるまでは、その都度調査資料の写しを事務局に提出する。

### (報告書の保存)

- 5 報告書の保存は、自然環境保全センター箱根出張所が行うこととし、報告書及び調査資料については自由に閲覧できる状態にしておく。

### (事務局の設置)

- 6 事務局は、箱根町元箱根旧札場 164、自然環境保全センター箱根出張所内に置く。

### (その他)

- 7 リーダー及びボランティア調査員は連絡会議の承諾を得た場合、調査結果を学会・機関誌に発表又は印刷できる。

この要領は平成12年4月1日から適用する。

モニタリングの詳細  
植生調査

(表 - 1)

項目	内 容	
リーダー	井上香世子 (箱根湿生花園)	
調査区域	火入れ区域 (管理区分図 - B) とその対照区域 (管理区分図 - D) の内、現存する各植生に対し均質な地点を選点する。	
調査方法	大方 形区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10 m × 10 m の四隅に杭を打つ。</li> <li>・ 調査地点番号を記した札を立てる。</li> <li>・ 伐採前の樹木の種類・本数・被度 (5段階)・樹高を記録する。</li> <li>・ 全出現植物の名前と被度を記録する。</li> </ul>
	小方 形区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大方形区の中で、適当な地点に 2 m × 2 m で設定する。</li> <li>・ 必要な場合は 2 ~ 3 箇所を設定する。</li> <li>・ 全推定法による植生調査 (植物社会学的調査) を行う。</li> <li>・ 主要な植物の分布図を作成する。</li> </ul>
調査時期	通年行う。	
調査人員	植物に精通する者 1 名と助手 2 名が 1 セットで、2 セット。 (大方形区の調査時間約 2 時間)	
その他	毎年各方形区の植生状況を同じ地点から写真撮影する。	

## 昆虫の生息調査

(表 - 2)

項 目	内 容
リーダー	佐藤勝信（元箱根町社会教育センター）
調 査 区 域	植生調査と同じ
調 査 対 象	ミドリシジミ・ミヤマカラスシジミ・ オオルリハムシ・クロトゲハムシなど約10種類 ヒョウモンチョウ類
調 査 方 法	一時捕獲（オス・メスの確認、損傷状態の確認）
調 査 時 期	6～9月（月平均2回）
調 査 人 員	2～3名
そ の 他	

小動物の生息調査

(表 - 3)

項 目	内 容			
リーダー	石原龍雄（箱根町森のふれあい館）			
調査区域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 灌木伐採部分</li> <li>・ ヨシの刈り取り部分</li> <li>・ 火入れ部分</li> <li>・ ハンノキ林の一部</li> </ul>			
	地上性小哺乳類	湿原性鳥類等	両生類・爬虫類	陸産・淡水産貝類
調査対象	カヤネズミ	オオヨシキリ クイナ、ヒクイ ナ、オオジシギ	イモリ、カエル、 カメ、ヘビ	在来種、帰化種
調査方法	生け捕り調査 (シャーマン トラップ) 生息調査 (球巣)	鳥類相の把握	生息状況の把握	現状の記録と 帰化種侵入の有無 を確認
調査時期	春 1回 晩秋～冬 2回	5～6月に 2～3回	春 1回 夏 1回 秋 1回	夏～秋 2回
調査人員	各調査1回につき2～3名			
その他	トラップ数は30～50個。 調査時間は深夜となる。			

項 目	内 容					
リーダー	自然環境保全センター箱根出張所					
助 言 者	温泉地学研究所					
調 査 区 域	火入れ地区全体					
調 査 対 象	a . 水源位置		d . 水質			
	b . 湧水量		e . 雨量			
	c . 地下水位		f . 土壌分析			
	水源位置	湧水量	地下水位	水 質	雨 量	土壌分析
調 査 方 法	現地確認 図面に表 示。	断面と流速 を測定し流 量を計算。	観測井で水 位計を用い て観測。	簡易分析 (温地研)	観測資料を 提供しても らう。 (仙石原中)	ボーリング サンプルを 農総研で分 析。
調 査 時 期	年 2 回	月 1 回	月 1 回	年 2 回	通年 (火入れ 前後)	ボーリング 時
調 査 人 員	2 名	2 名	2 名			
そ の 他						

景観調査

(表 - 5)

項 目	内 容
リーダー	南関東地区自然保護事務所 公園保護科長
調査区域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙石原台ヶ岳 ススキ草原から</li> <li>・仙石原乙女トンネル前道路（国道138号線）脇から</li> <li>・長尾峠道路（県道）から</li> </ul>
調査対象	仙石原湿原の遷移の状況
調査方法	<p>定点（調査区域の箇所）からの写真をカメラで撮影し、記録保存する。各箇所最低1枚記録し、保存は、撮影箇所、撮影年月日、撮影者を写真裏に記載すると共に写真帳にも記載する。併せてネガ袋にも撮影年月日、撮影箇所、撮影者を記載する。</p>
調査時期	<p>年4回下記の月 5月・8月・11月・2月</p>
調査人員	南関東地区自然保護事務所 箱根自然保護官 公園保護科員
その他	

別表1 調査日報

仙石原湿原 調査日報				
調査対象	植生調査・昆虫調査・小動物調査・水域調査・景観調査			
調査月日	平成	年	月	日( )曜日 時 分～ 時 分
天候		気温		
リーダー名	ボランティア調査員名			
<b>調査内容</b>				
<b>特記事項</b>				